観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和 7 年　7 月　30 日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	十勝川温泉旅館協同組合	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 北海道音更町	
所在地	北海道河東郡音更町十勝川温泉北 14 丁目 1 番地	
設立時期	昭和 30 年 3 月 28 日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	19 人【常勤 15 人（正職員 15 人・出向等 0 人）、非常勤 4 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 作田　英実 （出身組織名） （株）観月苑	十勝川温泉旅館協同組合代表理事、音更町十勝川温泉観光協会副会長、(株)観月苑代表取締役社長。 十勝川温泉旅館組合長を 2021 年 6 月までつとめ、地域の集客対策に積極的にメデイアプロモーションを取り組み音更町観光振興の中心的役割を担い成果を挙げている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 山岡　しのぶ「専従」 （出身組織名） 十勝川温泉旅館協同組合	リクルート北海道じゃらん営業担当として 10 年間勤務後、Knot プランナーとして十勝管内のホテル経営コンサルやマーケティングを行う。道の駅ガーデンスパ十勝川温泉の運営管理、十勝川温泉地域を中心としたデータ収集、分析を行う。観光分野において音更町の観光振興・まちづくりにも参加。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 谷本　悦子「専従」 （出身組織名） 十勝川温泉旅館協同組合	十勝川温泉旅館協同組合にて 5 年間勤務。各事業において効率的かつ安定的な運営のため、運営収支および財源確保に関する検討を行う。
各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右	（氏名） 杉本　浩章 （出身組織名） （株）第一ホテル	十勝川温泉旅館組合長、（株）第一ホテル代表取締役社長。 観光分野において数多くの公職にあたり、海外プロモーション経験も豊富で高い能力を持つ。十勝川温泉中心市街地再生事業の推進、温泉街グランドデザイン策定について中心的役割を担い成果を上げている。

様式１

<table>
<tr><td>横に「専従」と記入すること</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</td><td colspan="2">音更町経済部商工観光課（観光振興)、産業連携課（地域ブランド）
建設部都市計画課（都市整備、まちづくり）
オブザーバー：池田町商工観光課、幕別町商工観光課（将来的な観光振興）</td></tr>
<tr><td>連携する事業者名及び役割</td><td colspan="2">十勝川温泉観光振興協議会（十勝川温泉地区の観光振興）
十勝エコロジーパーク財団（道立公園エコロジーパーク利用促進）
（一社）音更町十勝川温泉観光協会（観光振興事業推進・イベント開催）
十勝川温泉旅館組合（十勝川温泉地区の観光広告・宣伝）
JTB 北海道帯広支店（観光マネジメントサポート）
商工組合中央金庫帯広支店・北海道銀行音更支店・帯広信用金庫木野支店等金融機関（事業推進のための資金協力及び助言）
音更町商工会（音更町商工会会員との連携促進・食と観光の連携促進及び拓殖バス・帯運観光・十勝バス（二次交通対策関連）</td></tr>
<tr><td>官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</td><td colspan="2">【該当する登録要件】
当該地域は、「おとふけ・十勝川温泉観光振興地域づくり協議会」にて連携を図っております。中枢に十勝川温泉旅館組合の下部組織である「十勝川温泉旅館組合活性化委員会」にて月１回以上の委員会を開催、事業計画などを協議し、旅館組合に諮って事業実施としており、同様に十勝川温泉旅館協同組合では、独自事業実施組織として位置づけられております。委員会は、十勝川温泉旅館組合、十勝川温泉旅館協同組合、音更町十勝川温泉観光協会、音更町を主体で行われ、各部会協議案件により、音更町商工会、バス会社、金融機関等が参加され、地域連携のうえ合意形成を図っている。</td></tr>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td colspan="2">・北海道遺産「モール温泉」の活用を「美と健康」をテーマにし、住民参加型モニター体験（スパ内ホットヨガ、健康増進企画）の開催、商品化を図る。
・道の駅ガーデンスパ十勝川温泉にて地元を中心とした出店者を募り「雑貨&ビューティマルシェ」の定期開催を継続的に行っている。
・町内の主に中学校の職場体験学習などを積極的に受入れ、観光地域づくりの様々な取り組みや、町の観光に関わることを知ってもらう</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td colspan="2">【活動の概要】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>□平成 28 年事業
北海道遺産「モール温泉」を核とする観光振興事業を展開
北海道遺産「モール温泉」を資源とする観光振興を音更町十勝川温泉観光協会及び音更町と共同で推進。
□平成 30 年～令和 4 年
道内メディアキャンペーンの実施
□令和元年
海外プロモーション実施（フィンランド、東南アジア）
□令和 4 年
海外プロモーション実施（東南アジア）
□令和 5 年
ATWS 北海道へ参加
道内メデイアキャンペーンの実施
海外プロモーション実施（台湾、香港、タイ))
□令和 6 年
海外プロモーション実施（台湾、香港、タイ、マレーシア、シンガポール、韓国）
道内メデイアキャンペーンの実施</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

様式１

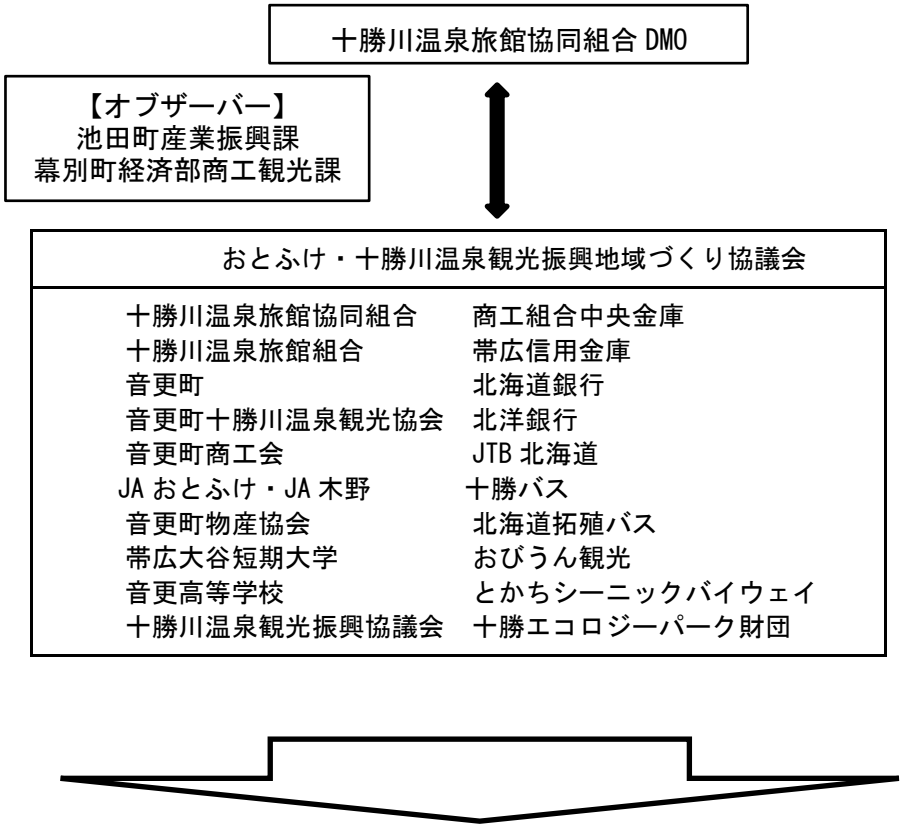
		十勝インバウンド誘客促進協議会　各分科会参加 イベント情報発信（特設 WEB サイト、専用 Instagram 開設） □令和 7 年 海外プロモーション（台湾、香港、韓国、タイ、マレーシア、シンガポールほか） 道内メデイアキャンペーンの実施 十勝インバウンド誘客促進協議会　各分科会参加 イベント情報発信（特設 WEB サイト、専用 Instagram 開設）
	受入環境の整備	□平成 26 年～28 年 12 月 音更町と共同した十勝川温泉中心市街地再生事業 音更町と連携した廃墟ホテルの解体と跡地再整備を柱とする十勝川温泉中心市街地再生事業を平成 26 年から 4 ヶ年を実施しました。　平成 28 年 12 月に北海道遺産「モール温泉」、十勝の食、体験型観光をメインに「美と健康」をテーマに、音更町の新たな観光拠点施設「ガーデンスパ十勝川温泉」の運営を十勝川温泉旅館協同組合が担い、約 19 万人の日帰り客数の向上がありました。　本事業の実施による音更町への宿泊入込数は、新拠点施設オープン及びＤＭＯ効果現在、昨年比２万人増となっている。 □平成 29 年 十勝川温泉地区の事業者との連携強化 十勝川温泉地区の観光関連団体及び飲食店、商店組合、町内会等で組織する十勝川温泉観光振興協議会の事務局業務を担う。 □～令和 4 年 シーニックバイウェイ「トカプチ雄大空間」への参加 観光コンシェルジェ育成に寄与。地域と行政が連携し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域づくり・美しい観光地づくりを図る「シーニックバイウェイ　トカプチ雄大空間」へ参加するとともに、十勝に住む人が十勝の良さを伝える観光コンシェルジェ育成に寄与しております。 □令和 3 年 地域内における滞在時間の付加価値向上のため道の駅ガーデンスパ十勝川温泉に、犬専用の足湯を併設したドッグラン整備を実施。 □令和 3 年～4 年 ・温泉集中管理事業に関わる源泉調査及び改修計画の実施。 ・令和 4 年環境省補助事業の活用した「十勝川温泉集中管理施設高効率化省 CO2 促進事業（配管設計）」を実施。 □令和 4 年 観光庁「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業」申請。採択により廃屋撤去 1 件、宿泊施設改修 3 件、実証実験 1 件について実施。 □令和 5 年 ・観光庁「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業」申請。採択により宿泊施設改修 5 施設、観光施設改修 1 施設について実施（一部令和 6 年の実施）。 ・環境省「二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金」申請。採択により温泉集中管理設備の改修を実施。高効率的な設備の

		運用とモニタリング設備導入により、持続可能な温泉の安定供給と源泉管理を図る。 ・環境負荷低減アメニティの共同開発を開始。 □令和 6 年 ・温泉集中管理設備の 2 源泉の調査・解析の実施。温泉保護地域において各施設に安定的な温泉供給と効率化を図るため ・上士幌 Karch の DMO の課題解決に向けた実証事業においてデイステイネーションマケーテイング研修に参加 ・道の駅ガーデンスパ十勝川温泉中庭ガーデン整備 □令和７年 前年迄の源泉調査・解析をうけ、１源泉の増強について北海道温泉部会に申請（6 月）、許可後、１源泉の整備、配管更新計画について検討、実施に向けて進める。
		観光資源の磨き上げ　　□平成 28 年～令和 2 年 十勝川流域における着地型観光振興事業の展開 観光旅行の形態が「団体型」から「個人型」へ転換する中着地型の観光事業を積極的に展開しており、以下の点３つの基準計画をもって取り組んでおります。 （1）　基準計画Ⅰ　「恒例観光イベントの更なる磨き上げ」 ・ハナック花ロードに連動したガーデンスパ十勝川温泉での地元住民参加型の花いっぱい運動の実施 ・開湯 120 周年事業植樹祭の実施。 ・音更町十勝川温泉オータムフェスト 2017 に連携した「おもてなし料理」や「ハロウィンイベントコンサート」「ハロウィン体験教室」など地域取組みに新たな事業を追加し実施。 （2）　基準計画Ⅱ「音更町・十勝川温泉の観光資源・滞在コンテンツの充実」 ・自然や景観を満喫するほか、アウトドア体験等十勝川流域エリア(音更町、 池田町、幕別町）を活用した既存の観光資源を磨き上げるとともに、訪日外 国人に対し日本人の健康長寿命の秘訣「美と健康」をテーマに音更町の植物性モール温泉を活用したガーデンスパ十勝川温泉を拠点としたヘルスツーリズムを提供し新たな滞在型のコンテンツを充実しています。 ・既存の観光資源の磨き上げと道の駅ガーデンスパ十勝川温泉の温泉を活用した整備計画の検討。 十勝の大自然を満喫する観光資源、熱気球や十勝川下りなどのアウトドア体験やガーデンスパ十勝川温泉での体験内容を充実し､継続的に体験観光を実施。 □令和 2 年 ・ガーデンスパ十勝川温泉　道の駅登録 国土交通省から北海道で 128 番目となる道の駅登録、令和 2 年 7 月に道の駅としてオープン。11 月までに 10 万人を超える入場者数となる。同じく国土交通省より高速道路の道東道長流枝付近にスマート IC の建設が決定。音更町内もう一つの道の駅おとふけが令和 4 年 4 月 15 日移転オープンし、二つの道の駅を結ぶ「メロディーライン」の新たな利用促進計画などが町商工会含めて検討されている。 ・開湯 120 周年事業

様式１

	温泉街の中心通り「手ぬぐい通り」に掲げるフラッグデザイン（春夏版、秋冬版）を一般公募。音更町小中学校にも町を通じ募集し、最優秀賞者２名のデザインを採用し各デザインを約半年間手ぬぐい通りに掲げ、温泉街を訪れ歩く人を楽しませるものとなった。 □令和３年 ・道の駅ガーデンスパ十勝川温泉に、モール温泉を活用した犬専用足湯付きドッグランを整備。 □令和５年 ・従来のイベントについて集客検証と見直し、新たなイベント創出の検討（活性化委員会） ・道の駅ガーデンスパ十勝川温泉　水の遊び場改修 □令和６年 観光庁「地域観光新発見事業」申請、採択。観光閑散期における夜のイベント「琥珀ナイトアンドマルシェ」を開催し宿泊客の集客増を目指し継続を図る。 モール温泉を活用した商品開発について、町内事業者、高校との連携をはじめ、次年度以降も継続する。 □令和７年 観光庁「地域観光魅力向上事業」申請、採択。前年に引き続き「琥珀ナイトアンドマルシェ」を11月開催予定。
	【定量的な評価】 １　出資数・金額　：　2,810口、2,810万円 ２　組合員数　：　5 ３　年間売上高　：　千円 ４　売上純利益　：　千円
実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** 商工観光行政を担う音更町、観光振興事業を担う音更町十勝川温泉観光協会と連携・共同するとともに、それぞれの特性を生かした観光振興を展開します。ＤＭＯの運営に当たっては、音更町及び十勝川温泉の宿泊事業者・飲食業者のみならず、音更町商工会、ＪＡおとふけ、ＪＡ木野等、商工業や農業など地域住民からなる観光部会、商業部会、食文化教育部会、交通部会、社会資本整備部会を構成し、地域住民からなる観光地としての地域づくりを推進しています。2017年からＤＭＯ専門人材を配置するほか、ＪＴＢ北海道のサポートを受け体制を充実強化しております。将来、池田町及び幕別町との地域連携を視野に各町をオブザーバーに連携強化を図っています。

【実施体制図】

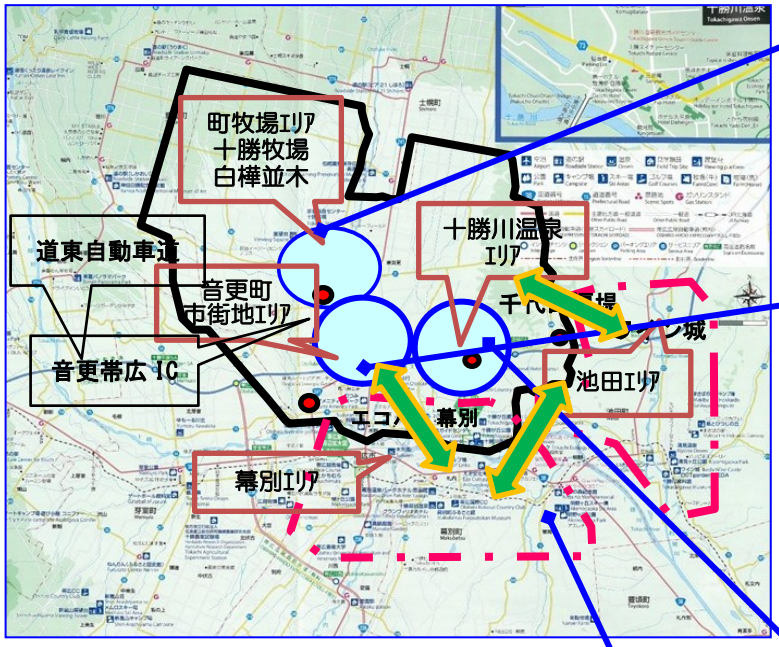


観光部会	商業部会	食文化・教育部会	交通部会	社会資本整備部会
地域イベント及び国内外観光プロモーション等との連携による観光振興	商工業との連携による観光振興	食・農業を活用し、高等教育機関と連携した観光振興	２次交通対策等による観光振興	観光インフラの整備による観光振興

様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



十勝の広大な牧場や畑(十勝牧場、菜の花畑、ひまわり畑など)、自然環境（十勝牧場白樺並木）を活かした観光事業の促進

市街地エリア

1　十勝音更の食文化など地域資源を活かした魅力創造
2　商店街におけるインバウンド消費の拡大による地域活性化（「柳月」「よつ葉乳業」工場見学、音更町商工会との連携、免税店の拡大）

十勝川温泉エリア

1　音更町基幹産業の農業と観光の連携事業及びの自然環境を活かし道東周遊観光の促進
2　自然環境とマッチしたｱｳﾄﾄﾞｱ体験型観光「着地型観光」を促進
夏：熱気球、川下りツアー、
冬：「彩凛華」、ｽﾉｰﾗﾌﾃｨﾝｸﾞ ｽﾉｰｼｭｰ
3「ガーデンスパ十勝川温泉」を核としたモール温泉と食と農を観点とした体験型観光の魅力創造

十勝川流域エリア

音更町以外の十勝川流域の池田町や幕別町の観光資源と連携した周遊　体験型観光の創造
音更町：ｱｸｱﾊﾟｰｯｸやｶﾞｰﾃﾞﾝｽﾊﾟ十勝川温泉での「ﾗﾝﾀﾝﾅｲﾄ」新ｲﾍﾞﾝﾄ開催
池田町：十勝唯一のワイン製 千代田堰堤 ブドウ園の景観
幕別町：エコパ「幕別エリア」魚道

【区域設定の考え方】
　音更町は、北海道十勝の中央に位置し、北海道遺産「モール温泉」や北海道・十勝の自然を活かしたアウトドア体験観光を主要な観光資源としています、
ＤＭＯがマーケティング・マネジメントする区域は音更町全域としますが、町内を大きく３つのエリアに区分し、観光振興事業を展開します。

①【農村・牧場エリア】
　十勝の広大な牧場・畑(十勝牧場、菜の花畑など）及び自然環境（十勝牧場白樺並木）を有する。

②【市街地エリア】
　十勝音更の食文化など地域資源の魅力を体感できるエリア。和洋菓子「柳月」及び「よつ葉乳業」工場、道の駅おとふけなつぞらのふるさとなどの商業施設を有する。

③【十勝川温泉エリア】
　北海道遺産「モール温泉」をテーマとした「道の駅ガーデンスパ十勝川温泉」を中心に宿泊施設が立ち並ぶ温泉地とアウトドア体験観光の拠点である。

④【十勝川流域エリア】将来の連携を視野に入れた検討内容
　音更町以外の十勝川流域の池田町や幕別町の観光資源と連携した周遊体験型観光の創造。

【観光客の実態等】※設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入。
令和６年度　音更町観光入込客数は 2554.8 千人（R５年度 2480.3 千人）前年比 103%
令和 4 年 4 月「道の駅おとふけ」移転リニューアルオープンから観光入込客数は順調に推移。
宿泊延べ人数 378.4 千人（R5 年度 374 千人）前年比 101%、うち外国人宿泊延べ人数は 77.3 千人（R5 年 62.8 千人 123%）と大きく伸びた。
1 泊 2 日の旅行消費平均額 31.3 千円（R5 年度 30.5 千円）※DMO 宿泊統一アンケート調査より
R5 年度と比較すると 800 円増。原材料費の値上げなどから各項目において値上げが影響していると分析する。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

1　農村・牧場エリア

（主な観光資源）
自然:家畜改良戦ター十勝牧場（展望台、白樺並木など）、音更川
農　業：菜の花畑、ひまわり畑など

（主な取組内容）
① 十勝の広大な農村景観（十勝牧場、菜の花畑など）や自然環境（白樺並木）を活かした観光振興の促進
② 地元農家が主催する「麦感祭」（ばっかんさい）は、R6 年より道の駅おとふけ、三浦農場、道の駅ガーデンスパ十勝川温泉の 3 会場で開催する交流型イベントとして充実

2　市街地エリア

（主な管観光資源）
観光施設：鈴蘭公園
街　　道:おとふけメロディーライン（音更帯広 IC、道の駅おとふけと十勝川温泉を結ぶ町道）
商業施設：道の駅おとふけ、柳月スイートビアガーデン、よつ葉乳業十勝主管工場など

（イベント）
みのりーむフェスタおとふけ、商工会納涼花火大会、鈴蘭公園夜桜ライトアップ

（主な取組内容）
① 十勝音更の食文化など地域資源を活かした魅力創造
② 商業施設におけるインバウンド消費の拡大による地域活性化
（「柳月」・「よつ葉乳業」工場見学、音更町商工会との連携による「おとふけメロディーライン」を活用した観光振興、イベントの拡大など）

3　十勝川温泉エリア

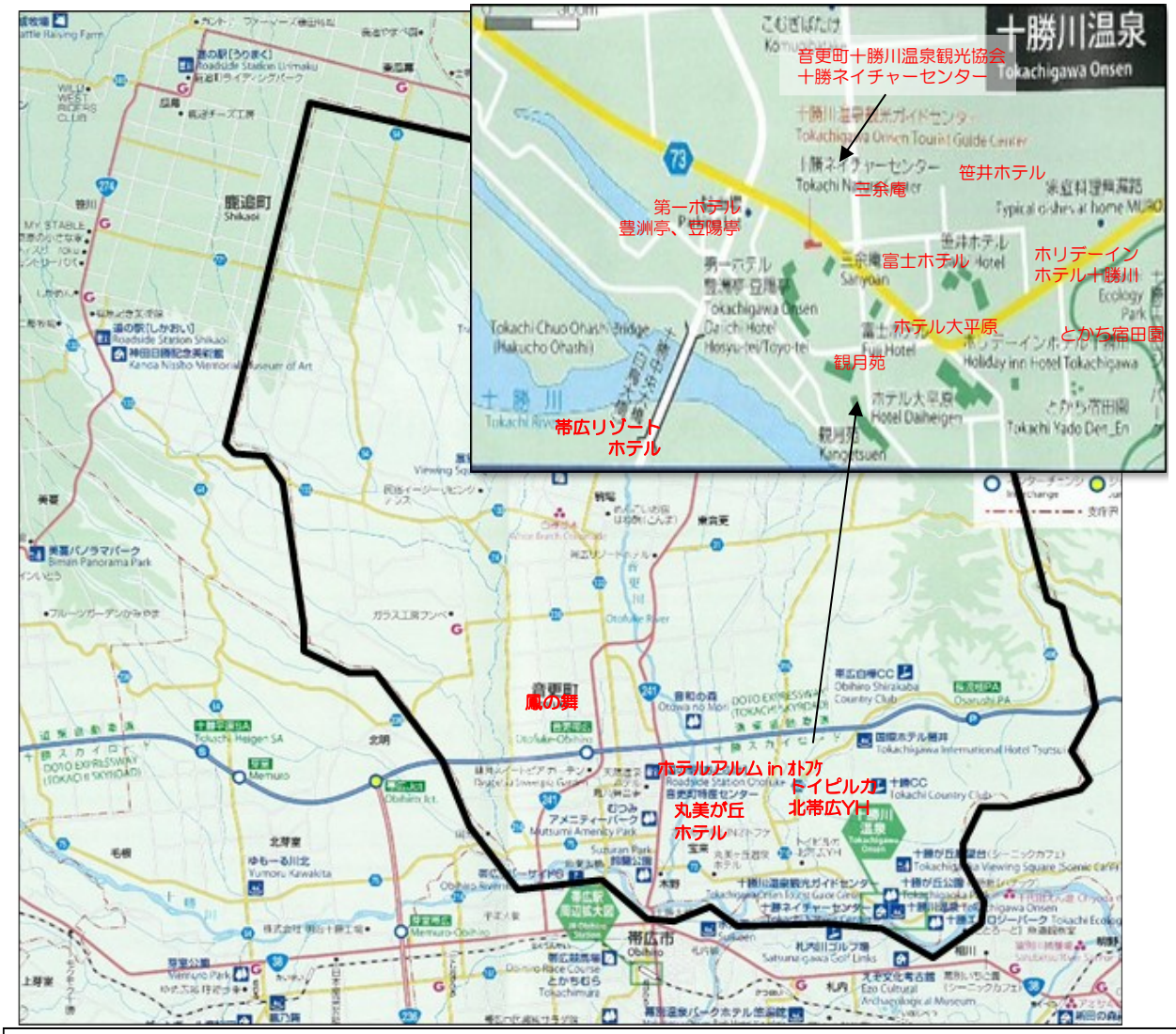
（主な観光資）
自　　然：十勝川、白鳥・タンチョウ・オオワシなどの野鳥、十勝が丘展望台からの十勝平野と日高山脈まで一望できる丘陵地帯
観光施設：公園（十勝が丘公園（ハナック）、十勝川温泉アクアパーク、十勝エコロジーパアーク）、十勝川温泉、十勝が丘展望台、道の駅ガーデンスパ十勝川温泉

（イベント・アウトドア）
花風景ハナックと花ロード、琥珀ナイトアンドマルシェ、十勝川白鳥まつり「彩凛華」
農業体験、熱気球、十勝川ネイチャーツアー、ワシ観察クルーズ、ノルディックウォーキング、フットパスウォーキング、スノーラフィティング、スノーモービル、スノーシュー各種体験

【主な取組内容】
① 音更町基幹産業の農業と観光の連携事業
② 自然環境とマッチしたアウトドア体験型観光の促進
③ 道の駅ガーデンスパ十勝川温泉を活かした観光振興
〇北海道遺産「モール温泉」の魅力発信
〇多目的ホールや芝生広場を活用したイベント開催
〇モール温泉を活用したチーズなどの乳製品など十勝の豊かな食文化の魅力発信
〇外国人観光客を受け入れる環境整備（水着着用温浴施設整備）

様式１

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

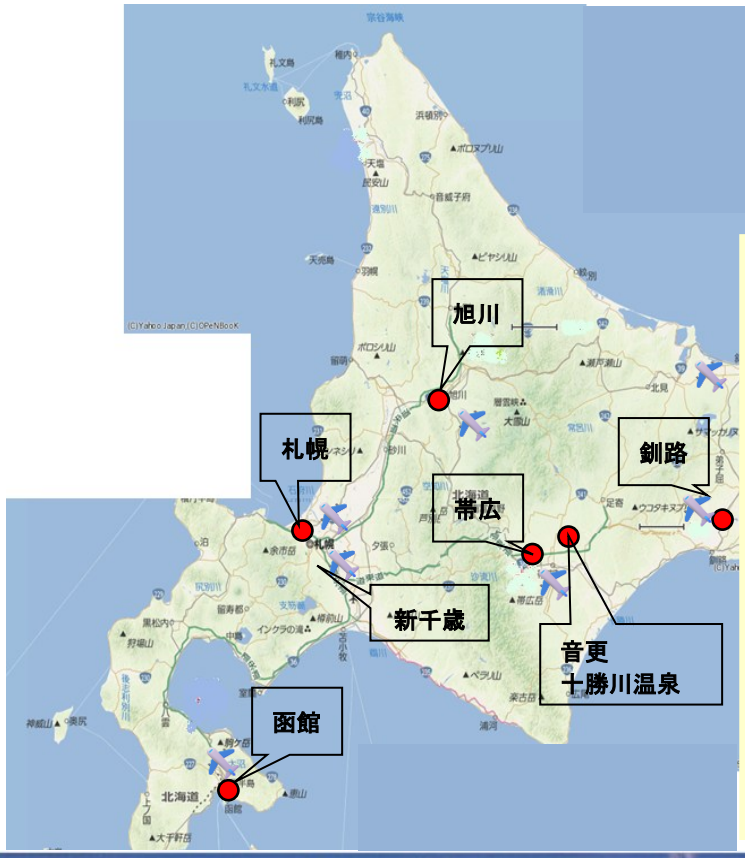


	ホテル名称	収容人員	過去5年間平均宿泊人数	施設規模等	モール温泉
十勝川温泉	観月苑	459	342,000	104室、日帰り入浴	モール温泉集中管理システム加盟
	ホテル大平原	770		162室、日帰り入浴	同上
	第一ホテル	466		122室、日帰り入浴	同上
	笹井ホテル	500		117室、日帰り入浴	同上
	筒井ホテル	450		95室、日帰り入浴	モール温泉
	富士ホテル	80		40室、日帰り入浴	モール温泉
	ホリデーインホテル十勝川	300		64室、日帰り入浴	モール温泉
	エコパ(ｺﾃｯｼﾞ・ｷｬﾝﾌﾟ	61			
	とkちの田園	25		10室	モール温泉
音更町内	帯広リゾートホテル	200	30,000	41室、日帰り入浴	モール温泉
	丸美が丘ホテル	12		3室、日帰り入浴	モール温泉
	風の舞音更	110		61室、日帰り入浴	モール温泉
	ｲｰｼﾞｰﾘﾋﾞﾝｸﾞ	7		4室	
	ﾄﾘﾋﾟｶﾙ北帯広YH	18		8室	
	ロッジラッキーフィールド	8		4室	
	ホテルアルムinオトフケ	65		39室	

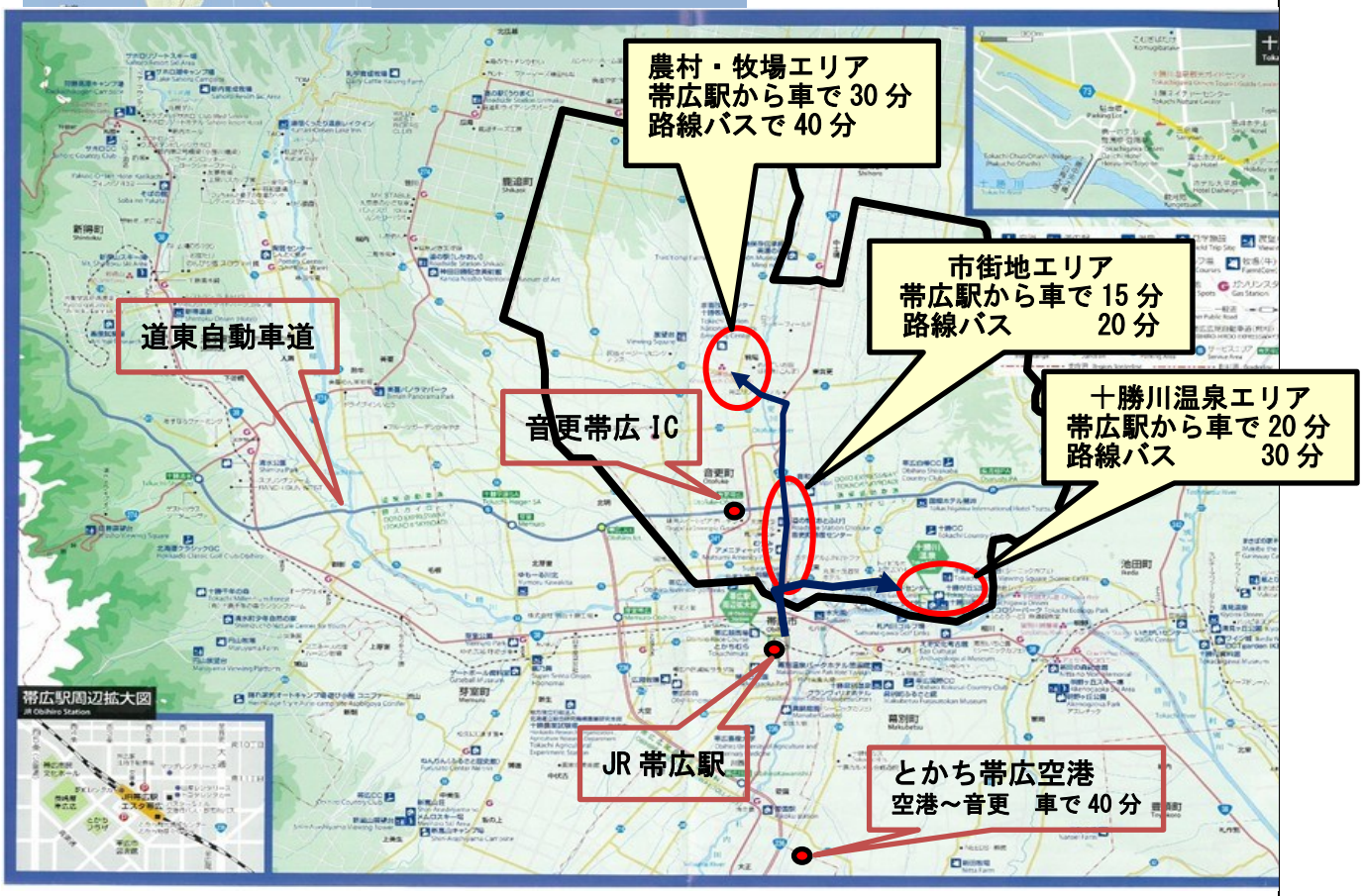
※モール温泉集中管理：温泉の枯渇及び保護の観点から北海道庁の指導を受け、限定した源泉井戸から温泉水を汲み上げ、配湯所から各ホテルへ温泉管を敷設し、温泉水を提供。集中管理設備の老朽化に伴い、令和３年度から専門家の調査、令和４年度に続き令和５年度は環境省の補助事業を活用し、設備更新を行った。R6 年は２源泉の井戸解析を実施し、将来的に安定的かつ効率的な温泉供給を目指した改修計画を作成。令和７年度以降の井戸の増強申請、改修計画とした。

様式１

【利便性：区域までの交通、域内交通】



○札幌から十勝川温泉　約２００Ｋｍ
車／約3時間（道央自動車道札幌市内ICから道東自動車道音更帯広IC）
ＪＲ／帯広～札幌約２時間30分
バス／約３時間30分、都市間バス「ポテトライナー」、観光協会・旅館組合共同事業「モール温泉号（秋・冬限定）」
○新千歳空港から十勝川温泉　約１７０Ｋｍ
車／約2時間30分（道央自動車道新千歳空港ICから道東自動車道音更帯広IC）
ＪＲ／南千歳～帯広特急約２時間10分
バス／約３時間、都市間バス「ミルキーライナー」
○旭川から十勝川温泉　約１７５Ｋｍ
バス／音更市街まで約３時間45分　都市間バス「ノースライナー」
○釧路から十勝川温泉　１２０Ｋｍ
車／約２時間（道東自動車道利用）
ＪＲ／帯広～釧路１約時間30分



【外国人観光客への対応】

① 道の駅ガーデンスパ十勝川温泉における水着着用温浴施設（モール温泉スパ）
② 十勝で育まれた安心・安全・おいしい食の提供。
③ 十勝川など豊かな自然を活かしたアウトドア体験、ナショナルサイクルルート「トカプチ400」を活用したメニューの検討と構築
④ ①～③を組合わせ、魅力的なアドベンチャーツーリズムへの取り組みにつなげる。
⑤ 外国人観光客が多い十勝川温泉地域の Wi-Fi 整備

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	宿泊者を対象とした統一アンケートを自主事業として実施。（年１回）
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	音更町の調査を活用。 自主事業としては、十勝川温泉地区宿泊施設から道内、道外、海外別実績を収集（月１回）
来訪者満足度	来訪者の満足、不満を把握・分析し、施設及び地域の満足度向上に繋げるため。	宿泊者を対象とした統一アンケートを自主事業として実施。（年１回）
リピーター率	地域への訪問回数およびリピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	宿泊者を対象とした統一アンケートを自主事業として実施。（年１回）
ＷＥＢサイトのアクセス状況	顧客の関心度や観光商品およびイベントなどの効果を把握するため。	ガーデンスパ十勝川温泉及び音更町十勝川温泉観光協会の WEB サイトを活用して状況を確認。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	音更町の調査を活用。
新聞・雑誌などメディア掲載	メデイアを活用した情報発信をより効果的に繋げるため	日々の掲載確認と記録を自主事業として実施。

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

北海道十勝地域の中央部にあり、中核都市帯広市のベットタウンと、十勝の農業中枢を担う農業地帯である音更町。帯広市の人口増加とともに住宅建設や商工業立地として発展してきたが、近年の生産人口の減少、農業者の高齢化等により、就業者数や事業所が減少傾向にある。さらに北海道遺産に認定されている「モール温泉」十勝川温泉地域において、国内外からの入込客数の減少傾向や、通過型観光地からの脱却、新型コロナの流行による宿泊および観光施設の弱体化。これら地域の課題に対し、観光地域づくり法人（ＤＭＯ）を中心として既存の観光資源を活用した観光地域づくりを図り、新たな雇用の創出や、担い手不足の解消、交流人口の増加につなげることとしている。

様式１

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** **・自地域で積極的に活用できる強みは何か？** 〇音更町十勝川温泉観光協会と共同した国内外のプロモーションの実施 〇世界的にも珍しい泉質、北海道遺産「モール温泉」を資源とした観光 〇町の基幹産業である農業との連携 〇四季を通し、十勝川、田園風景、日高山脈といった十勝の広大な自然景観。 〇夏、冬と十勝川流域など自然を活用した各種アウトドア体験 〇十勝・音更の安心・安全でおいしい食材を活用した食文化 〇十勝川温泉街のにぎわい創出と地域活性化を目的とした滞在拠点「道の駅ガーデンスパ十勝川温泉」	**弱み（Weaknesses）** **・自地域で改善を必要とする弱みは何か？** 〇観光形態の変化（団体型から個人型への変化）に対応する顧客ニーズに合致した地域観光素材及び情報発信不足 〇観光形態の変化（団体型から個人型への変化）に対応する顧客ニーズに施設が対応できていない 〇コロナの影響により宿泊・観光施設の資本体制の弱体化 〇外国人誘客に向けた具体策が少ない。 〇マーケティング手法がまだ少なくアナログ。分析、戦略に向け、施設から継続しての細かな数字がまとまりにくい。 〇平均滞在日数 1.15 日と通過型からの脱却が進んでいない
外部環境	**機会（Opportunity）** **・自地域にとって追い風となる要素は何か？** 〇道東自動車道の札幌直結、釧路延伸により各地域からの集客誘致に好環境。更に長流枝スマート IC 開通により十勝川温泉へのアクセス向上、観光客増加が見込まれる。 〇北十勝 4 町広域観光振興連絡協議会（鹿追、士幌、上士幌、音更）による地域連携した観光 PR が継続的に実施。 〇「道の駅ガーデンスパ十勝川温泉」の整備、運営により、農業、商業、交通、旅行、金融、学校など地域の多様な関係者との連携・協力体制を確立。 〇モール温泉を活用したラクレットチーズの製造・販売する「十勝品質事業協同組合」との連携 〇ナショナルサイクルルート「トカプチ 400」の認定により国内外のサイクル観光客の増加が期待できる。 〇ATWS　2023 北海道開催に伴い、AT 層の増加に期待できる。	**脅威（Threat）** **・自地域にとって逆風となる要素は何か？** 〇道内に訪れる外国人観光客は、新千歳空港利用が主であり、道東を訪れる客数はまだまだ少ない。 〇新千歳空港と音更町を結ぶ２次交通手段が少ない。 〇日本人観光客の減少 〇主要既存顧客の高齢化 〇バス運転手不足と燃料高騰 旅行商品の高額化、さらには地方における旅行商品の減少となれば深刻 〇人手不足の慢性化

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
※ターゲット層については、地域だけでなく、国・地域・世代・誘客のテーマ等の顧客の属性による設定が考えられる。
台湾・タイ・シンガポール・香港を中心とした東南アジア（特に富裕層）※ターゲット層については、地域だけでなく、国・地域・世代・誘客のテーマ等の顧客の属性による設定が考えられる。

○選定の理由 ※４．戦略（１）・（２）の分析を踏まえたターゲット層の設定であることを説明すること。 他地域と比較し北海道への来道数が多く、今後拡大傾向が望める。冬の自然やアウトドア体験や温泉に興味関心が高いことから、本地域の冬期集客と相性が良いと考えている。 ○取組方針 温泉に興味関心が高いことから、世界的にも珍しく、北海道遺産に認定される「モール温泉」と、十勝ならではの自然景観・アウトドア体験・食を組合せた「美と健康」ヘルスツーリズムコンテンツの提供により、「滞在型観光」へのシフトを狙いたい。（例）他地域と比較して当該ターゲット層の来訪が著しく多く、また市場としても今後拡大傾向にあるため。
○第２ターゲット層 十勝管内
○選定の理由 11～3 月既存顧客として利用が増える。農閑散期にあたるため個人、関係団体利用も増え、なおかつリピーターとなっている。地元顧客に愛着をもってもらう事も重要と捉えている。 ○取組方針 アンケートなどを活用し、顧客ニーズの確認と満足度向上に向けた情報共有を行いリピーターづくりにつなげる。国内外の顧客に、ここを紹介したいと思ってもらえるようなファンづくりを目指す。
○第３ターゲット層 国内外の女性（①北海道内 60 歳代　②北海道および国内 30～40 代）
○選定の理由 ①は地域の既存顧客。主にモール温泉号連泊プラン利用者として年々リピーターが増えている。 一方、高齢化が進んでいるため、地域顧客として新たに②をターゲットとして狙い、滞在型観光地を目指したい。 ○取組方針 二次交通対策を含め、モール温泉号の継続運行。心と体を癒す観光コンテンツを組み合わせ、連泊、滞在型観光地へのシフトを狙いたい。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	※他地域と明確に区別できる特徴・価値等を来訪者に伝える表現を簡潔に設定すること。 北海道遺産「モール温泉」を活かし、 「また訪れたくなる」「滞在したくなる」「住みたくなる」 にぎわいのある観光地づくり
②コンセプトの考え方	※地域が目指すべき姿を明確にし、そのために地域ならではの産業、伝統、食、住、風習等やそこから導き出される区域の特徴（強み、価値）を、①コンセプトにどのように反映させているかについて他地域との差別化も踏まえて記入すること。 ※（１）～（３）のデータ分析の内容を踏まえて作成したコンセプトであることを説明すること。 ◆北海道遺産の「モール温泉」を活かした ①　「美と健康」の促進 ②　温泉熱エネルギーの活用 ③新たな温泉活用に向けた地域連携および商品開発 ◆また訪れたくなる 地元客を含めたリピーター、ファンづくり ◆滞在したくなる

	広大な自然景観とアウトドア体験および食の体験についての情報発信の充実と、受入れ環境整備の促進 ◆住みたくなる 生産者の顔が見える安心・安全でおいしい食の魅力発信

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	※戦略の共有方法について記入すること 活性化委員会、ＨＰ、事業報告書の説明会
	ＤＭＯを中心として、自治体を含めた地域関連団体事業者と開催する活性化委員会を１か月１回設け、各情報提供・共有・方針決めを行う。また必要に応じ、外部事業者等も参加し連携などを図る。 活性化委員会　　毎月 1～2 回程度 事業報告書説明　年 1～2 回程度 HP にて事業報告　年１回の更新
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	音更町内の旅館・ホテルなどの宿泊事業者、飲食店などの観光サービスに関係する事業者に対して、観光サービス優良店評価制度を実施しています。 ①お客様アンケートの実施と評価チェックリストの作成 ②優良店の表彰の設立及び広告優先制度（満足度向上店限定） 広告・宣伝における特権の実施（例）飲食店や宿泊施設をはじめとする地域が提供する観光サービスに係る品質保証制度を実施。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	年間プロモーション計画を策定し、DMO が一元的に実施するものと各関係者が実施するものに区分してプロモーションを実施しています。 特に、第１ターゲットである海外客の誘客のため、海外でのプロモーション活動においては、統一された音更町十勝川温泉のブランドイメージの発信・強化に努めています。 DMO　HP を整備し、旅館・ホテル等の HP とリンク。 検討を続けたワンストップ宿泊予約システムの導入は、費用対効果と係る人員確保に至らず根本的な見直し。令和 5 年度に戦略的なプロモーション活動ができるマーケティング、面的 DX を目指し、JTB に依頼し宿泊データシステムの勉強会を開催し検討。現状インバウンドに関するマーケティングができていないこと、今後インバウンド誘客を考慮し、音更町のみならず十勝地域全体での取り組みができないか、「十勝インバウンド誘客促進協議会」マーケティング部会に所属し、地域にあった体制の構築の検討について連携して進められないか検討。あわせて音更町内における宿泊データシステム導入について町、観光協会とともに協議を進めている。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

様式１

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	7,502	8,072	9,681	12,312	12,754	13,525
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	10,191	10,231	11,828			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	332	380	420	390	400	420
		（ ）	(30)	(45)	(90)	(100)	(105)
	実績	331	374.5	378.4			
		(21)	(62.8)	(77.3)			
●来訪者満足度（%）	目標	86.1	87.0	87.9	88.8	89.7	90.5
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	81.8	82.5	85.6			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●リピーター率（%）	目標	53.5	54	54.5	55	55.6	56.1
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	69.4	52.3	52.1			
		（ ）	（ ）	（ ）			

【検討の経緯】
※ＫＰＩとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。

音更町が策定する総合戦略との整合や、平成 28 年から十勝川温泉魅力発信施設ガーデンスパ十勝川温泉の開設にともない、宿泊及び旅行消費額の拡大を期待され目標設定値を設定した

・・・

/manzokudochousa.html）を参照して実施し、例えば、毎年○%増などの目標を設定して記入すること。
平成 29 年度独自のアンケート調査により、実績値を算出したが、組合ホテルのみの調査(81.4%)であり、平成 30 年度は、音更町全域を考慮するとともに、北海道の観光統計、過去のホテル及び主要旅行会社のアンケート結果の統計（平均値）を参考に(61.8%)とした。また平成 30 年度組合ホテルアンケートにより 82.8%となり、令和元年度から令和 6 年度まで各年度 1.01 倍増加目標とした。
・・・

●メディア掲載回数
宿泊施設の各販売促進、宿泊入込客数の増加を図るため、メデイア露出度を設定していたが、データ収集ルールがあいまいとなっており令和４年度より調査方法を変更。
入込客数および宿泊客数の推移（増減）と、メデイア露出による影響、効果を測る。

【設定にあたっての考え方】
●宿泊施設の稼働率
過去のホテル及び主要旅行会社のアンケート結果の統計(平均値）及び平成 29 年度独自のアンケート結果を踏まえ、顧客の利用ニーズを高めるため宿泊入込数と各宿泊施設利用率から適正な稼働率を設定した。平成 28 年度稼働率 71%となり平成 29 年度以降　稼働率 71%を維持し好調を持続させることして目標を設定した。コロナ禍の影響確認を含めて、令和４年度独自調査を行い、目標設定について 75%を目標とした。

・・・

		【公物管理受託】 1,220,000 円 【収益事業収入】 196,000,000 円 【会費】 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）
2025（Ｒ７） 年度	216,180,000（円）	【国からの補助】 7,500,000 円 【都道府県からの補助金】 【市町村からの補助金】 7,480,000 円 【公物管理受託】 1,200,000 円 【収益事業収入】 200,000,000 円 【会費】 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）
2026（Ｒ８） 年度	214,200,000（円）	【国からの補助】 5,000,000 円 【都道府県からの補助金】 【市町村からの補助金】 8,000,000 円 【公物管理受託】 1,200,000 円 【収益事業収入】 200,000,000 円 【会費】 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）
2027（Ｒ９） 年度	215,000,000（円）	【国からの補助】 【都道府県からの補助金】 【市町村からの補助金】 5,000,000 円 【公物管理受託】 1,200,000 円 【収益事業収入】 208,800,000 円 【会費】 【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（R4） 年度	167,530,000 円	【一般管理費】 114,500,000 【情報発信・プロモーション国内】 600,000 【情報発信・プロモーション海外】 【2 次交通】 2,000,000 【受け入れ環境整備などの着地整備】 2,000,000 【コンテンツ開発】 【マーケティング】 400,000 【宣伝費】 2,000,000 【イベント関係】 1,500,000 【整備その他】 10,100,000 【事業費】 34,430,000
2023（R5） 年度	211,200,000（円）	【一般管理費】 126,500,000 【情報発信・プロモーション国内】 400,000 【情報発信・プロモーション海外】 500,000 【2 次交通】 1,500,000 【受け入れ環境整備などの着地整備】 500,000 【コンテンツ開発】 【マーケティング】 500,000 【宣伝費】 2,700,000 【イベント関係】 1,900,000 【整備その他】 76,700,000 【事業費】
2024（R6）	219,800,000（円）	【一般管理費】 151,500,000 【情報発信・プロモーション国内】 1,000,000

年度		【情報発信・プロモーション海外】 1,500,000 【2 次交通】 1,500,000 【受け入れ環境整備などの着地整備】 11,000,000 【コンテンツ開発】 2,500,000 【マーケティング】 1,000,000 【宣伝費】 2,700,000 【イベント関係】 18,000,000 【整備その他】 25,000,000 【事業費】 3,600,000
2025（R7） 年度	210,500,000（円）	【一般管理費】 160,000,000 【情報発信・プロモーション国内】 1,500,000 【情報発信・プロモーション海外】 1,500,000 【2 次交通】 1,500,000 【受け入れ環境整備などの着地整備】 2,000,000 【コンテンツ開発】 2,000,000 【マーケティング】 1,000,000 【宣伝費】 5,000,000 【イベント関係】 11,000,000 【整備その他】 25,000,000
2026（R8） 年度	192,500,000（円）	【一般管理費】 165,000,000 【情報発信・プロモーション国内】 1,500,000 【情報発信・プロモーション海外】 2,000,000 【2 次交通】 2,000,000 【受け入れ環境整備などの着地整備】 2,000,000 【コンテンツ開発】 1,000,000 【マーケティング】 1,000,000 【宣伝費】 3,000,000 【イベント関係】 5,000,000 【整備その他】 10,000,000
2027（R9） 年度	193,500,000（円）	【一般管理費】 168,000,000 【情報発信・プロモーション国内】 1,500,000 【情報発信・プロモーション海外】 2,000,000 【2 次交通】 2,000,000 【受け入れ環境整備などの着地整備】 2,000,000 【コンテンツ開発】 1,000,000 【マーケティング】 1,000,000 【宣伝費】 3,000,000 【イベント関係】 5,000,000 【整備その他】 10,000,000

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

区域を構成する地方公共団体における宿泊税の導入、着地型旅行商品の造成･販売等の取組･方針を記載

1 観光客の満足度を高め、付加価値の高い着地型体験観光商品等の造成
平成 28 年開業（令和 2 年道の駅に登録）「道の駅ガーデンスパ十勝川温泉」にてモール温泉を活用したスパ（水着着用温浴施設）、4 店舗の飲食店、マルシェ、十勝の食材を使用した体験工房、多目的ホール、芝生広場を整備。施設を活用した体験観光商品、地域連携イベントの開催を展開。
十勝川流域を中心に北海道・十勝の自然を満喫できる新たなアウトドア体験観光や農業体験観光などの体験観光商品を造成・販売。

令和２年７月ガーデンスパ十勝川温泉が道の駅登録したことにより、情報発信と観光客の満足度を高め、交流人口の増加と経済波及効果の拡大が図られている。

2 マーケティングの強化
　滞在型観光地にシフトするうえで、様々な調査と検証を取り入れていく体制と人材教育が必要。コロナ禍を経て旅行者ニーズの変化もあり、満足度の把握や課題の明確化、あわせてマーケティングに関する講習会及び人材育成を展開。勘と経験に頼らない戦略、プロモーション、受入れ環境整備により、地域経済効果を高める総合的向上施策を模索。構成員（会員）の DMO に対する認識の共有化と波及効果を高める。

3 音更町の農畜産物・食材を活用したオリジナル商品やモール温泉化粧品を販売

4 十勝川温泉で使用できる湯めぐり券の販売

5 モール温泉の保護と安定供給を持続させるため、集中管理設備の更新及び管理体制の見直しを図る。専門家の調査、提言を受け、モール温泉活用用途拡大に向けた検討を進める。

6　観光閑散期における新イベントの開催と収益性を見込んだ継続。地域事業者と連携しイベントにて収益をあげられるマーケットイベントとして確立することを目指す。あわせて観光に訪れる顧客と地域住民の交流の場として滞在、リピーター増を目指す。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。
（例）〇〇都道府県、××市町村は、△△法人を当該都道府県及び市町村における（広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ）として登録したいので△△法人とともに申請します。

北海道音更町は、十勝川温泉旅館協同組合を音更町における地域 DMO として登録したいので、十勝川温泉旅館協同組合とともに申請いたします。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】
役割分担について公式な協議は行っていないが、「十勝インバウンド誘客促進協議会」が立ち上がり十勝管内の各ＤＭＯが協議会組織に加わり、事業連携などが進むと考えている。
商品造成などの企画連携について、音更町および十勝川温泉エリアで行い、且つメリットのあるものに対して連携協力は行う方針。音更町、十勝川温泉地域の特色を活かした事業、商品造成、ブランド提携ができることを考慮し、事前に当協議会または活性化委員会での協議と承認が必要としている。

【区域が重複する背景】
当 DMO 発足が先であったため。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】
※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。
各ＤＭＯの事業内容が特化していることもあり、区域が重複していても問題ないとの認識です。役割分担や事業の連携については一部行っていることもあり、今後も互いに協議や検討が必要となる場合は協議の場を設けていきたい。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】
互いの組織はもちろん、地域全体として効率的、効果的な活動となるような協議をしたい。

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	山岡しのぶ
担当部署名（役職）	十勝川温泉旅館協同組合　専務理事
郵便番号	080-0262
所在地	北海道河東郡音更町十勝川温泉北 14 丁目
電話番号（直通）	0155-46-2447
ＦＡＸ番号	0155-46-2533
Ｅ－ｍａｉｌ	bizinyu@tokachigawa.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	北海道音更町
担当者氏名	吉村　慶太
担当部署名（役職）	経済部商工観光課観光係　（係長）
郵便番号	080－0198
所在地	北海道河東郡音更町元町 2 番地
電話番号（直通）	0155－42－2111（内線 736）
ＦＡＸ番号	0155－42－2117
Ｅ－ｍａｉｌ	keita-yoshimura@town.otofuke.hokkaido.jp

都道府県･市町村名	
担当者氏名	
担当部署名（役職）	
郵便番号	
所在地	
電話番号（直通）	

様式１

ＦＡＸ番号	
Ｅ－ｍａｉｌ	

（候補／登録）【登録区分】（DMO名称）

様式2

記入日：　令和7年7月30日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
　北海道音更町
【設立時期】　1955年3月28日
【設立経緯】
①区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設
【代表者】　作田　英実
【マーケティング責任者（CMO）】　山岡　しのぶ
【財務責任者（CFO）】　谷本　悦子
【職員数】　18人（常勤14人（正職員13人・出向等1人）、非常勤4人）
【主な収入】
　収益事業　196百万円、委託事業　1.2百万円（R6年度決算）
【総支出】
　事業費　35.5百万円、一般管理費　138百万円（R6年度決算）
【連携する主な事業者】
十勝川温泉観光振興協議会、音更町十勝川温泉観光協会、十勝エコロジーパーク財団、音更町商工会、十勝バス、拓殖バス、帯運観光、JA木野

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	7,503（　）	8,673（　）	9,681（　）	12,312（　）	12,754（　）	13,525（　）
	実績	10,191（　）	10,232（　）	11,827（　）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	332（　）	380（　）	420（　）	390（　）	400（　）	420（　）
	実績	331（21）	374.5（62.8）	378.4（77.3）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	86.1（　）	87（　）	87.9（　）	88.8（　）	89.7（　）	90.5（　）
	実績	81.8（　）	82.5（　）	85.6（　）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	53.5（　）	54（　）	54.5（　）	55（　）	55.6（　）	56.1（　）
	実績	69.4（　）	52.3（　）	52.1（　）	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
①台湾を中心とした東南アジア圏
②十勝管内
③国内外女性
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
①自然体験（特に冬）とモール温泉
②農閑散期（11から3月）関連団体向け企画
③「美と健康」をテーマとするヘルスツーリズム
【観光地域づくりのコンセプト】
北海道遺産「モール温泉」を活かし、「また訪れたくなる」「滞在したくなる」「住みたくなる」にぎわいのある観光地づくり

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
①モール温泉を活用した男女混浴温泉施設（スパ）、犬専用足湯付きドッグランの営業
②温泉を活用したオリジナル商品の販売
【受入環境整備】
①観光庁地域一体型高付加価値化事業申請・採択（宿泊施設の改修、廃屋解体、実証実験）
②温泉集中管理設備の安定的かつ効率化を図った設備改修
【情報発信・プロモーション】
①道内メディアキャンペーン
②東南アジアプロモーション
③道の駅ガーデンスパ十勝川温泉SNSによる情報発信
【その他】
①近隣の道の駅連携
②環境負荷低減型バスアメニティの共同開発
③経済効果測定
④宿泊分析データシステム導入検討